

# 初めてカトリックの教会へいらした方へ

## カトリック芦屋教会

### † 主の平和

本日は、カトリック芦屋教会によろしくお越しくださいました。

カトリックでは、教会の建物のことを「聖堂（せいどう）」または「御聖堂（おみどう）」と呼んでいます。聖堂は、ただの建物ではありません。また人々が神様と祈りを通じてお話するだけの場所でもありません。

そこは、中央祭壇の聖櫃（せいひつ）の中に、生きた神様ご自身が小さなパンの形のご聖体のうちにとどまっておられる神聖な場所なのです。従って、ここは一般の公会堂や劇場のホールではないという事を強くイメージして、慎み深く行動するようにいたしましょう。大声で言葉を交わしたり、呼かけたり、走ったりすることは、お慎みください。

それでは、聖堂内をご案内しましょう。



正面の祭壇中央奥に大きな十字架上のイエス・キリストのご像があります。これは神の子キリストがご自分の命に代えて私たち罪深い人間を救おうという、神秘の救いの計画で示した究極の愛の姿を現しています。この愛こそがキリスト教の教えの根源であります。十字架上部に“INRI”の文字がありますが、磔刑の時に「ユダヤ人の王、ナザレトのイエス」と書かれたことに由来します。

祭壇の中央に、先ほどご説明した聖櫃（せいひつ）があります。この中に日々のミサ聖祭の中で聖変化したパン（ご聖体、キリストの聖なる身体の意味です）がカリス（杯）に納められて安置されています。そのことを祭壇の横にある点灯した赤いランプによって示しています。

正面左の柱の上部にA（アルファ）の文字が、右の柱には、Ω（オメガ）の文字があります。これは聖書の『ヨハネの黙示録』で神様が言われ

た言葉、「私はアルファであり、オメガである。」に由来する文字です。ギリシャ語のアルファベットの最初と最後の文字を指しており、神様は「全てであり、永遠である。」を表しています。

正面右のご像は、キリストの母、聖母マリア、左側はキリストの養父、聖ヨゼフです。



聖堂の両壁に全部で14駒ある木彫りの画像は、「十字架の道行き」といい(\*1)、イエス・キリストが十字架の磔刑の宣告を受けた場面に始まり、最後に墓に葬られるまでの14の場面を表しています。この各場面を見て、主の救いの業、十字架の神秘について黙想する祈りがあります。

後部左側には、「主のみ心のご像」と呼ばれるイエス・キリストのご像があります(\*2)。この聖堂が「主のみ心」に捧げられていることを記念して設置されています。その前には洗礼盆があります。これは洗礼を受ける時の聖水を入れる水鉢です。

聖堂の扉を入ると両側に、貝殻の水鉢が置いてあります(\*3)。これには、聖水が満たされていて、入堂した時、中指を浸して、額から縦に、左肩から横に十字を切り「父と子と聖霊のみ名によってアーメン」と心の中で唱え、神様に挨拶します。帰りも同様です。

そして、世界中にあるカトリック教会の聖堂は、ほぼ同様に構成されています。



\*1



\*2



\*3

「お祈り」は、私たちと神様との会話です。神様に感謝と讃美の気持ちを述べ、赦しを乞い、そして助けの恵みをお願いします。どうぞ、皆様が神様と素晴らしい会話をされますことをお祈りいたします。

※ くわしくお聞きになりたい方は、司祭館の主任司祭（川邨（カムラ）神父）をお訪ねください。  
電話:0797-22-3982 FAX:0797-23-5037